

## ヒューマンコミュニケーション～人間中心の情報環境構築のための要素技術～論文特集の発行にあたって

ヒューマンコミュニケーション～人間中心の情報環境構築のための要素技術～  
論文特集編集委員会

委員長 中村 裕一



情報通信技術（ICT）が急速に普及しつつある今日、人間中心の情報通信システムを構築する必要性がますます高まってきている。ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）は、その要望にこたえるため、現在の情報通信社会の先にある、人にとって優しく、使いやすい情報システムの研究の促進を目的として活動を行っている。2010年度は12の研究専門委員会で活動が行われており、人間を中心とした情報環境構築のための各種要素技術を確立するとともに、日常生活、福祉、知的活動など、情報環境上で特定の目的達成を支援するための応用技術、更には人間の感覚・心理・人体への影響、及び社会学・倫理学との関連性について横断的に議論が行われている。

そこでHCGでは、当該分野に関する最新の研究成果を広く会員に伝えることを目的として、ヒューマンコミュニケーション～人間中心の情報環境構築のための要素技術～論文特集を企画した。これまで、和文論文誌に2回、英文論文誌に3回など、最近では2年ごとに特集が組まれてきたが、今回はメディア処理や人工現実感に関連の深い和文論文誌Dでの特集とした。

本特集には一般論文・レター合わせて56編の投稿があり、厳正な査読の結果、25編が採録となった。これらの論文はヒューマンコミュニケーション基礎、ヒューマン情報処理、脳情報通信、ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション、マルチメディア、仮想環境基礎、ヒューマンプロープ、福祉情報工学、発達障害支援、料理メディア等、HCGの活動分野に深く

かかわるものであると同時に、情報通信システムの今後のあり方を俯瞰できる内容となっている。なお、採録された論文には、2009年度HCGシンポジウムからの推薦論文2編が含まれている。これらに加え、招待論文として、情報メディアと社会の新しいつながりを探る興味深い活動が行われている寛氏に「実世界指向Webアプリケーションの創出」を、メディア処理を新しい観点で再構築する手法を提案されている峯松氏らに「音声に含まれる言語的情報を非言語的情報から音響的に分離して抽出する手法の提案」を執筆して頂いた。各々大変示唆に富んだ論文となっている。本特集が読者の方々に貴重な情報と新鮮な刺激を与えることを期待している。

本特集は多くの方々の御尽力により成立した。本特集に御投稿頂いた著者の方々、査読に取り組んで頂いた編集委員及び査読委員、特に、編集幹事の川本一彦先生、埴大先生には多大な御尽力を頂いたことをここに記し、深く感謝する。

なかむら ゆういち  
中村 裕一（正員） 1985京大・工・電気工学第二学科卒、1990同大学院博士課程了。同年京都大学工学部助手。1993筑波大学電子・情報工学系講師。1999機能工学系助教授、2004京都大学学術情報メディアセンター教授。現在に至る。博士（工学）。画像理解、映像処理、インタラクティブメディア等の研究に従事。1996カーネギーメロン大学ロボティクス研究所客員研究員。1998～2001科学技術振興事業団さきがけ 21研究「情報と知」領域研究員（兼任）。情報処理学会、人工知能学会、ACM、IEEE各会員。

